

取組		達成状況
サーベイ ランス関係	検査の推進	- 検査目標数（299頭以上/年）の達成率が、令和3年9月末時点：17県→令和5年8月時点：28県に増加。 昨年同時期（3～8月末）比での検査数は横ばい(12,144→12,174)。
	九州地方 サーベイランスの強化	佐賀県における飼養豚農場での豚熱発生を受け、9月から12月までをサーベイランス強化月間として定め、この間、各県において、毎月60頭以上の検査実施を依頼。
	qPCRの前処理方法の 改善	血液や溶血度の高い血清などこれまで対応に苦慮してきた検体でも、容易に検査が実施できる新たな前処理方法を導入した。
	外部検査機関の整備	ジビエの手引きの改正に伴い、サーベイランスの対象としない検体の検査が可能になり、外部検査機関での検査の重要性が増した。外部検査機関の認定、サンプルの送付にあたっての技術的検討・整理、新規事業者開拓等を行った。
経口ワクチン 関係	経口ワクチン散布	- 令和5年9月30日現在、36都府県で経口ワクチンの散布を実施。 - 令和5年度後期に、青森県、千葉県で新たに散布を開始予定。
	経口ワクチン散布手法の 具体化	昨年度の検討会で議論した養豚場周囲での散布、また、感染確認初期の散布の考え方を具体化し、野外散布指針を改正。（令和5年3月末施行）
	九州地方での 経口ワクチン散布に向けた 体制整備	- 福岡県・大分県：散布に向けた県協議会等の設立等の準備を昨年指示。 -大分県：令和5年3月に県協議会設立。 -福岡県：準備・検討中 -宮崎県：令和5年6月に自主的に県協議会を設立。 - 他県について、佐賀県での飼養豚農場での豚熱の発生後、県協議会設置等の準備の加速化を指示。
	宮崎県での経口ワクチン 散布演習	宮崎県は、散布開始時に迅速に対応するため、7月26～27日にかけて散布演習を開催。技術協力として参加した。

取組		達成状況	
感染防止のための周知等の推進	狩猟者への防疫対策の周知	・地全協事業により <u>狩猟者向けの映像資材、マンガ資材を作成し、各都道府県等に配布</u> （R 5 年 3 月～配布）。	
	効果的な対策推進のための取組	・昨年度の「 <u>ナッジ手法を導入した感染拡大防止対策</u> 」の検証を発展させた <u>対策の理解度の収集・分析及び情報発信の強化を行うイベント</u> を10月実施予定。	
	豚熱、アフリカ豚熱対策に係る英語版HP作成	・農林水産省日本語ホームページで案内している <u>消費者への情報提供と交差汚染対策への協力依頼</u> について、 <u>英語版HPを作成・公開</u> 。	
		 英語版HP QRコード	
アフリカ豚熱初動対応関係	野生いのししのアフリカ豚熱対策に関する基本方針作成	・令和 3 年12月に実施した <u>いのししの死体の処理等の防疫作業に関する実地演習等</u> をもとに、野生いのししのアフリカ豚熱対策に関する基本方針案を作成。 ・令和 5 年度中の策定に向け、昨年度 <u>都道府県に基本方針案を提示</u> 。都道府県の意見を反映。	
	防疫演習の実施	・基本方針のとりまとめに併せ、各県において防疫体制を整えていく必要があることから、 <u>防疫演習要領・防疫演習に必要な資材等</u> について検討し、各県に共有。 ・3 県が「野生動物アフリカ豚熱防疫体制構築事業」を活用し、 <u>防疫演習を 9 月より来年 2 月にかけて実施予定</u> 。 ・9月6日全国に先駆けて栃木県で机上演習として大規模説明会を開催。	
	研究事業の実施	・日本でアフリカ豚熱が侵入した際に備え、 <u>野生いのししの適正な死体処理方法の開発、野生イノシシの耳片検体を用いた検査等採材手法及び高感度検査方法の実証</u> について、研究事業を実施。	